

淡路納税貯蓄組合連合会

視察研修旅行に参加して

淡路納税貯蓄組合連合会 糟谷 敬子

今回は足を延ばして、滋賀県立琵琶湖博物館、近江商人の里、近江八幡たねや・ラ・コリーナに行って参りました。

昨夜来の雨も上がり、晴天の下、一路滋賀へと向いました。

車窓よりの彩られた山々を楽しみ、湖東のレイクサイドロードを走り、琵琶湖博物館へと。この博物館は「湖と人間のよりよい共存関係を目指すための入り口」が、テーマとなっています。

琵琶湖は、400万年前に誕生、地盤からわかる自然の移り変わり、琵琶湖の恵みを受けての生活様式、数多くの川魚、大なまず 大山椒魚等鑑賞、やはり湖には神秘的なものを感じました。

水族展示室では、幾つかの企業が、水圧ポンプをサポートされており 大きな会館を維持されるご苦労が伺われました。



昼食は、守山市の「宝山園」で、美しい庭園に囲まれ、美味しいお料理を頂いて、最後にたねや・ラ・コリーナを訪れました。

ラコリーナとは、イタリア語で「丘」という意味、世界的な建築家ミケーレ・デ・ルツキ氏が、この地を訪れ、自然の美しさ 里山、棚田の美しさ そこに人々が集る小高い丘をイメージされ、名づけられました。自然の中で人々が集い、賑わう場でありたいとシンボルを「アリ」としています。屋根一面が緑の芝でおおわれた建物は、不思議の国に来た思いになります。時間帯に恵まれ数分の待ち時間で ここでしか味わえない焼きたてのバームクーヘンとお茶を頂き、暫しの至福の時を過ごせました。

ラ・コリーナへ次から次へと押し寄せる人の波、近江商人の「三方良し」「売って良し、買って良し、世間よし」の心がまさしく生かされていると感じ入りました。

落葉とどんぐりの実のころがった道を歩き、名ごりの秋を存分に楽しませて頂いた旅でした。

街頭PR活動について

「平成30年度税を考える週間」行事の一環として11月13日に「街頭PR作戦」をイオン洲本店前で実施。税務広報チラシ、イータ君スポンジとティッシュを同封したものを1,000セット用意し、洲本税務署、兵庫県洲本県税事務所、洲本市税務課及び収納対策課、淡路納税貯蓄組合連合会、公益社団法人淡路納税協会の総勢27名と、兵庫県の協力で、県のマスコットキャラクターの「はばタン」も参加し、全員たすき掛けで約1時間PRを行いました。

